

# 一般社団法人日本社会福祉学会 第66回秋季大会報告

日本社会福祉学会 第66回秋季大会 大会長 柴田 謙治（金城学院大学）

去る9月8・9日に金城学院大学で、日本社会福祉学会第66回秋季大会を開催することができました。大会参加者は、事前申込者が461名、当日申込者が231名で、合計692名でした(この数字には、事前申込をして当日参加できなかった方、また、中国、韓国から参加された方の分も含まれています)。大会に参加してくださった皆様に、心よりお礼申し上げます。

秋季大会により多くの会員に参加していただくためには授業期間の開催が望ましいのですが、開催校の教室確保や校務等の事情により、夏休みの開催となりました。予想よりも事前申込者が少なく、当日申込者が多かったのは、台風のリスクに参加者の皆様が備えた結果かもしれません。私自身、金城学院大学で上記の日程で秋季大会を開催することが決まってから「台風により中止になったらどうしよう」という懸念が頭を離れず、開催の数日前に秋季大会の期間に台風が名古屋に来ないことが確定して初めて、安心できました。

しかし北海道胆振東部地震により、被災した会員や交通機関が停止して学会に参加できなくなった会員がいたことについては、西胆振で生まれ育った人間として、極めて遺憾です。被災された皆様に、お見舞いを申し上げます。地震後に口頭発表を申し込まれた方から発表辞退の連絡をいただき、「学会に参加している場合ではないのだろうか」と思うと心が痛み、「電気の確保が厳しい中で、辞退の連絡をメールで送ることができない会員がいたらどうすればよいのか」と考えて、実行委員会と学会長、全国大会運営委員長が相談し、「連絡できない方は無理に連絡する必要はありません」という趣旨の文章を大会のツイッターに掲載しました。今大会からホームページにツイッターを設けたのは、台風により大会の1日目か2日目を中止せざるを得ない場合、その旨を参加者に周知するためでした。今回はそのような目的での使用ではなかったのですが、ツイッターの文字数の上限により、説明が足りず、冷たい印象を与えたとしたら、申し訳ありません。

9月8日の午前には、日本社会福祉学会中部ブロック部会の若手小委員会のご協力により「若手研究者のためのワークショップ」が開催されました。「学会における若手研究者支援について考えるー近接学問領域の学会から学ぶ」というテーマで、日本社会学会や日本心理学会、社会事業史学会から若手研究者のための取り組みを学び、日本社会福祉学会の「若手・女性研究者に対する支援検討委員会」による「若手・女性研究者の研究・生活の現状と研究促進に向けた課題」から、日本社会福祉学会に求められる支援策を提言していただきました。発題者、コメンテーター、司会の皆様にお礼を申し上げます。

また同じ時間帯に「留学生と国際比較研究のためのワークショップ」が開催され、「韓国・中国における社会福祉研究の最新動向と国際比較研究の現状」というテーマで、韓国社会福祉学会代表と中国社会学会社会福祉専門研究委員会代表から発題があり、グループ・ディスカッションとランチ・ミーティングが行われました。このワークショップと国際学術シンポジウムの開催にあたっては、中国と韓国の研究者との連絡や資料の翻訳等で、国際学術交流促進委員会の皆様に大変お世話になりました。ご尽力に感謝申し上げます。

9月8日の午後には、開会式と学会賞授賞式、そして大会校企画シンポジウム「21世紀の社会福祉と『運動性』」がおこなわれました。発題者とコメンテーターの皆様にご感謝申し上げます。また名誉会員であり、本学会の会長も務められた古川孝順先生からは、「過去の日本社会福祉学会の秋季大会で『社会福祉運動』というテーマが採用されなかったのは事実だが、口頭発表では社会福祉運動についての研究が盛況であった」とご教唆いただきました。社会福祉学会の記録に残らない歴史を学ばせていただいたことに、感謝申し上げます。

9月9日の午前には、国際学術シンポジウム「韓国・中国・日本における社会福祉運動の発達とその特徴」が開催され、「日本における社会福祉発達とその特徴」「韓国における社会福祉運動の発達とその特徴」「中国の新しい社会運動に基づく社会的抵抗と福祉政策の改革－民間の医事紛争に関する社会的抵抗を焦点として」が報告されました。

また同じ時間帯の特定課題セッション「『ひきこもり』問題をめぐる社会福祉研究を深化させるための課題と方向性」では、3件の報告がおこなわれました。

9月9日の午前と午後には約150件の口頭発表と、約80件のポスター発表がおこなわれました。プログラム編成の際には、「口頭発表はしたいが司会は断りたい会員の存在」や「大学院生の発表申し込みが多い分科会での、司会者の選定の難しさ」等、今後の全国大会運営委員会での検討課題もみられました。